

# 香川・岡山ブリッジシティ構想

---

瀬戸内アーバンクラスターの形成を目指して

2004





## 前文

瀬戸内海は古来より風光明媚な景観で名高く、わが国で初めての国立公園に指定されました。また、その沿岸には漁港や海上輸送の拠点として、さらには工業生産の集積地として、多くの町が栄えてきました。この瀬戸内海が国立公園に指定されて70周年を迎えるにあたり、瀬戸内海をはさんだ香川・岡山地域が県境を越えて相互の連携を進め、生き生きとした安心共同体を創り上げていくべきであると考えます。

現在、国は拠点都市を中心に国際空港や港湾、道路網などを集中整備し、地域ブロックをけん引する役割を担う自立圏地域、いわゆる広域圏連帶型の国土形成を進めています。また、構造改革特区指定施策により、地域の特性に応じた産業の集積や新規産業の創出などを通じて地域活性化の促進を目指しています。

そうした中で香川・岡山両地域が目指すのは、独自性を持って個性を發揮しながらも互いに助け合い、双方が恩恵を受ける、「リーダーなき連合体」です。そこでは住民や企業、自治体などが相互のネットワークの中で協力し合うことで大きな相乗効果が生まれ、個々では実現できなかったことが可能になります。連携を考える時、決して大きなお団子（行政体）にしては意味がありません。一つ一つの粒は小さくとも、それぞれが異なる魅力を持ち、個性的に光り輝く“クラスター（ブドウの房）”の構造にすることが重要です。両地域で新たな産業や文化がクラスター状に集積し、連携する「瀬戸内アーバンクラスター」の形成を目指します。

瀬戸大橋によって通勤・通学も頻繁になり、一体感でのてきた両地域は、好むと好まざるに関わらず、双方が影響を及ぼす関係となり、どちらかだけが発展、あるいは衰退するということはあり得なくなってきた。いわば運命共同体でもあります。両地域の連携は国土構造を変える新たなスタイルとなり、閉塞感の強いわが国の再生モデルとなり得るでしょう。

その実現のために、次のことを宣言します。

## 目次

### 総 論 香川・岡山ブリッジシティ構想から始まる広域都市圏の形成

- 1.瀬戸大橋を「核」に香川・岡山200万人の広域都市圏を形成
- 2.「産学官民」の新しく、大胆な連携協力を推進

### 提言 I 瀬戸大橋を通じて、未来志向の産業クラスターを形成

- I-1.「ベンチャーブリッジ構想」によるベンチャー企業の交流・展示会を開催
- I-2.四国TLOと岡山TLOとの連携で新たなビジネスを創出
- I-3.両地域の産業クラスター計画で技術・ノウハウの相互協力を
- I-4.地域産業の育成と販路拡大、PRを両地域で取り組む
- I-5.雇用・求職情報を連携し、雇用の流動による安定化を目指す

【参考事例】  
橋が創り出した一大産業集積エリア「メディコンバレー」

### 提言 II 交通の一体化と情報の共有化

- II-1.JR瀬戸大橋線の改善で高松・岡山間をよりスピードアップ
- II-2.駅からの接続システムを改善し、人の移動をスムーズに
- II-3.集客施設、集合住宅の集約的設置の計画を進める
- II-4.瀬戸大橋(瀬戸中央自動車道)の通行料金の大幅割引を要請
- II-5.マスコミを通じて地域情報の共有を
- II-6.広域情報ネットワークの利用確立を目指す

### 提言 III 世界トップレベルのおもてなしを実現

- III-1.東アジア諸国を対象に瀬戸内海を軸にした観光振興
- III-2.瀬戸内海の海産物を本場で味わう周遊グルメツアーを企画
- III-3.四国霊場88カ所めぐりや香川・岡山の寺社周遊プランを提案
- III-4.桃太郎伝説にまつわる名所を観光資源に活用する
- III-5.島々をめぐるクルージングルートの定着を目指す
- III-6.瀬戸大橋と景観の魅力をアピールするイベントの定期開催
- III-7.香川・岡山の両地域で観光振興の連携を

### 提言 IV 世界基準にふさわしい環境を維持

- IV-1.瀬戸内海の自然を守り育て、次世代につなぐための景観協定を
- IV-2.子どもたちの環境学習の機会と場を提供する
- IV-3.環境保全に取り組むNPO法人の輪を香川・岡山に広げる
- IV-4.沿岸域の環境保全を総合的に考える沿岸管理施策を導入
- IV-5.農村・漁村の環境を整備し、都市との交流を促進
- IV-6.「つくる漁業」で水産資源の確保を
- IV-7.瀬戸内海の改善を進め、豊かな海、美しい海の復活を目指す

# 香川・岡山 ブリッジシティ構想 から始まる広域都市圏の形成

## 1. |瀬戸大橋を「核」に |香川・岡山200万人の広域都市圏を形成

少子高齢化社会の進行や地方自治体の財政難により、市町村合併等の自治体再編の動きが進んでいます。少子高齢化や産業構造の変化、公共投資の縮小といった時代背景の中で、自立した産業を興し、地域を維持発展していくためには、一定の市場・人口規模を維持確保することが前提条件であり、早道だと考えられます。香川・岡山ともにこのまま打開策が見出せないまでは、大都市圏との地域格差が拡大するばかりでなく、地域を維持できない懸念があります。

欧州連合(EU)は、新たに10か国が加盟し、25か国体制に拡大され、一つのヨーロッパ実現に向けて大きく歩み出しました。連携により相乗効果を生もうという理念は、香川・岡山ブリッジシティ構想も変わりません。異なった国同士に比べれば、瀬戸内海を挟んだ地域同士の違いは無いに等しいものです。

瀬戸大橋の開通によって、香川・岡山両地域では通勤・通学が可能になりました。通勤圏が広域化することで通勤流動が加速。そ

の結果、就業機会が増大し、人口流出が抑えられる「ダム効果」が認められています。瀬戸大橋開通前の岡山から香川への人的移動は1日当たり606人だったのが、平成12年には2,268人に達しています。ちなみに閑門地域は1万人を超える流动実績があり、香川・岡山地域もさらに交流が拡大する可能性があります。

国の国土審議会は、日本の新しい姿として、「自立広域圏連帯型国土」の形成を目指す方針と言われますが、香川・岡山ブリッジシティ構想は、まさにこの考え方を先取りしたものです。瀬戸大橋によって重なりつつある香川・岡山の都市圏の一体化をさらに進め、人口200万人を超える広域都市圏として、市場規模を広げた形の中で地域の自立・振興を図ります。そして、こうした取り組みが総合的な特区的なものとして国から指定され、各種施策が迅速に行われるとともに、そのスタイルが日本の構造改革の新たな在り方のモデル提示となることを目標としていきます。

## 2. |「産学官民」の新しく、大胆な連携協力を推進

香川・岡山の広域都市圏化には、両地域の「産学官民」がこれまで以上に、それぞれの枠組みや発想を超える連携を大胆に進めていくことが大切です。そうすることで地域全体の一体化ムードが高揚します。また、産業面での連携協力に限らず、人材育成、福祉、教育文化など幅広い分野での協調・協働・補完関係が求められます。

一般連携施策の一例としては、水需要計画の両県一体化、雇用情報の共有化と人材交流の促進、大学間の単位互換制度、情報産業の技術・コンテンツの連携、医療福祉他

のコンベンション機能の向上、両県財政予算の一部共有化、女性及び熟年実務経験者の登用と交流、行政・商工会議所・JC・経済文化団体他の交流、ニュース・情報の広域発信などが挙げられます。

市町村合併の推進、岡山市・倉敷市間の業務提携など、裾野の統合連携はすでに社会システムとして確立しつつあります。次のステップは、より広域的な新社会システムの構築であり、中四国州の実現も視野に入れ、一里塚として香川・岡山の県域を越えたタイアップは大きな意味を持つものといえるのです。

# 瀬戸大橋を通じて、 未来志向の産業クラスターを形成

I-1

## 「ベンチャーブリッジ構想」による ベンチャー企業の 交流・展示会を開催

高齢化社会の進行や経済の低迷など多くの課題を抱える一方で、経済活動の広域化や地方分権の進展に伴う地域間競争の激化など、社会経済環境が大きく変化する中で、新規産業の創出や成長産業の育成を促進することが不可欠です。香川・岡山両地域とともにベンチャー企業の創業支援や各種産業振興プログラムに取り組むとともに、岡山リサーチパークや香川インテリジェントパークといった施設を活用し、産業クラスター（集積地域）の形成を目指しています。

平成15年7月、倉敷市で真鍋香川県知事と石井岡山県知事による「岡山・香川両県知事会」が開催され、瀬戸大橋の利用促進や広域観光、今後の広域的自治体の在り方、産業振興などについて話し合いが行われました。

産業振興の面では「ベンチャーブリッジ構想」として、県境を越えてのベンチャー育成・創業支援についての説明会やビジネスマッチングの会の実施などの提案が行われました。この構想をさらに進め、経済団体や産業界との連携により、両地域でのベンチャー交流会や研修会の共同開催、ビジネスマッチングの会の開催を企画します。

I-2

## 四国TLOと 岡山TLOとの連携で 新たなビジネスを創出

経済が急速にグローバル化し、産業構造も大きく変化しています。このような時代にあって、大学や公的試験研究機関が保有する優れた技術シーズを活用し、新製品、新市場、新産業を創出する「知的財産によるものづくり」が、いま求められています。その技術シーズを円滑に産業界に移転する仕組みがTLO（Technology Licensing Organization：技術移転機関）で、产学官連携の中心となる機関です。

四国では平成13年に「四国TLO」が徳島大学、高知大学、高知工科大学、愛媛大学、香川大学の5大学が中心となって設立され、現在四県にある21の大学・高専の技術シーズをすべて取り扱っています。

岡山県では平成16年4月に岡山県産業振興財團が「岡山TLO」を設立。岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、美作大学、津山高専の8大学1高専と連携し、会員企業(200社)を募集しています。

四国TLOと岡山TLOでは、それぞれの地域の技術シーズを産業界に活用することで、新製品の開発や製品改善・新事業の展開を進めるとともに、双方のTLOが連携し、技術シーズやノウハウを共有することで、新たなビジネスの創出を図ります。



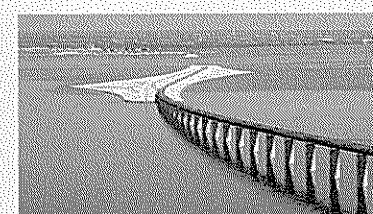


### **【参考事例】 橋が創り出した一大産業集積エリア 「メディコンバレー」**

瀬戸大橋で結ばれた香川・岡山地域と似た事例が海外にあります。

2000年7月、海で隔てられていたデンマークとスウェーデンにオアスン橋が開通し、陸続きになりました。国境を越えた両岸の地域のつながりと緊密化を背景に26の大病院、11の大学、500社以上のバイオ関連企業が集積し、関連就業者数は3万人以上にのぼります。それゆえに、この地域はシリコンバレーにならって「メディコンバレー」と呼ばれています。現在、メディコンバレーはバイオテクノロジーの分野でロンドン、パリに次いで欧州第3位を占めています。

国境を越えた外国間地域の連携に比べれば、同一国内の地域の連携は決して難しいものではないでしょう。今夏、メディコンバレーの視察を予定しています。



I-3

### **両地域の 産業クラスター計画で 技術・ノウハウの相互協力を**

香川県ではバイオテクノロジー分野で糖質バイオクラスターの形成を進めています。糖質バイオとは、希少糖やガレクチン(糖蛋白質)、グリコサミングリカン(海洋微生物がつくる多糖類)に関する生物学・生物工学で、その研究成果を生かして新規産業(医薬品・機能性食品・化粧品・農薬等)の創出を目指しています。高松市及び三木町の区域の一部は糖質バイオクラスター特区に指定されています。

一方、岡山県では「ものづくり新分野進出プロジェクト」において、低価格で優れた特性を持つ新しい複合プラスチック材料の開発、「環境対応型ものづくりプロジェクト」において、人に有害なVOC(揮発性有機化合物)の発生を極力抑えたものづくりに取り組んでいます。

産業クラスターの形成において、関連性のある分野で両地域の技術・ノウハウの協力を図ります。

I-4

### **地域産業の育成と販路拡大、 PRを両地域で取り組む**

香川県には手袋、石材加工、食品加工など、岡山県には果物、陶芸、繊維など、地域ならではの産業があります。例えば、現在、復興活動が行われている岡山県の備中漆を香川県の漆器に利用するなど、両地域にまたがる活用方法を提案します。

また、地場産品の販売、PRにおいても、現在、両県で個々に展開している物産展等のイベント開催や大都市圏のアンテナショップ設置、インターネットショッピングモールの実施に加え、両地域が協力し一体となり、それぞれの地域産品の魅力を効果的に広めることで需要促進を図ります。

I-5

### **雇用・求職情報を連携し、 雇用の流動による 安定化を目指す**

長引く経済活動の低迷により、新卒者の就職率の低下やフリーターの増加、企業倒産や業績不振による退職者の増加、高齢者の就業支援など、現在の就労環境には多くの課題があります。香川・岡山においても、就労環境の改善を目的に、新たな雇用創出の場づくりやキャリアアップ支援等のさまざまな施策に取り組んでいます。

瀬戸大橋の開通や情報ネットワークの整備に伴い、香川・岡山間の物理的距離は大きく短縮されています。両地域の雇用・求職の情報を連携共有することで、雇用の流動化を生み出し、相互の補完を図ります。

# 交通の一体化と情報の共有化

## 提言Ⅱ

### II-1

#### JR瀬戸大橋線の改善で 高松・岡山間を よりスピードアップ

広域都市圏を形成するうえで、交通のアクセスは重要なポイントです。香川・岡山間には、昭和63年4月に道路・鉄道併用橋として、瀬戸大橋(児島・坂出ルート)が開通。香川・岡山の経済活動の活性化や住民生活の利便性向上に大きな役割を果たしています。

特にJR瀬戸大橋線は、定期旅客数が平成5年以降、2,500人(1日)を超えており、両地域の人的交流の軸となるものです。平成16年3月のダイヤ改正に伴い、快速マリンライナーに2階建て新型車両を導入。高松・岡山間の所要時間は最速で54分と、ますます便利になっています。また、岡山県内の単線区間の一部を複線化することで、さらにスピードアップすることが可能です。

今後は高松・岡山間の所要時間40分台を目指すとともに、さらなる広域経済圏の形成を視野に入れ、整備新幹線の導入も求めていきます。

### II-2

#### 駅からの 接続システムを改善し、 人の移動をスムーズに

鉄道を軸とした広域都市圏の形成においては、人がスムーズに移動できるように、駅と接続する交通システムを改善することが必要です。

その方法として、自家用車と鉄道を併用するパーク・アンド・ライド方式の促進やJR吉備

線(岡山県)のLRT(Light Rail Transit)化、バス運行システムの改善などを進めます。また、現在利用されているバス(電車)カードのほか、香川・岡山両地域で使用できる公共交通カード(ICカード)の導入、使用を検討します。

### II-3

#### 集客施設、集合住宅の 集約的設置の計画を進める

都心部の地価高騰や車社会の一般化、自然回帰志向など、さまざまな要素の複合により、都心人口が減少し、郊外の人口が増加する、いわゆるドーナツ化現象が多くの都市で見られています。

広域都市圏を形成するためには、現在の都市状態では無理があります。地価が下落傾向にあるいま、まず地域で核となる都市機能を持つ街づくりが求められます。香川・岡山両地域では瀬戸大橋沿線や都市部で集客施設や集合住宅を計画的に設置することを進めます。

これにより、広域都市圏を形成するために必要な一定の人口が確保できるとともに、人の移動もしやすくなり、両地域で不足する機能や施設を相互に補完する効果が生まれます。



II-4

## 瀬戸大橋 (瀬戸中央自動車道)の 通行料金の大幅割引を要請

JR瀬戸大橋線とともに広域都市圏の交通アクセスの軸となるのが瀬戸大橋(瀬戸中央自動車道)です。しかしながら瀬戸大橋の通行料金は開通当初から、地元の経済界をはじめ各方面から割高感が指摘されていました。開通時は三橋のうちの一橋のみという優位性がありましたが、本四三橋時代に突入してからは三橋間の競合が激化し、優位性は喪失しています。

通行料金に関しては平成15年7月から新特別料金が適用され、瀬戸大橋の通行料金は4100円(普通車／早島・坂出間)で、従来の料金(4600円)より1割引となっています。しかしながら、ご承知のとおり、現在の特別料金は適用1年後に見直されることになっています。

平成15年の瀬戸大橋の通行量は1日平均約14,000台で、特別料金適用後も増加しており、前年と同程度となっています。これは特別料金の適用後、神戸淡路鳴門自動車道への利用転換が生じ、特別料金の効果と相殺していると考えられます。

本四公團は道路公團民営化法案により、単独で民営化される予定ですが、引き続き通行料金の大幅な割引を求めていきます。

II-5

## マスコミを通じて 地域情報の共有を

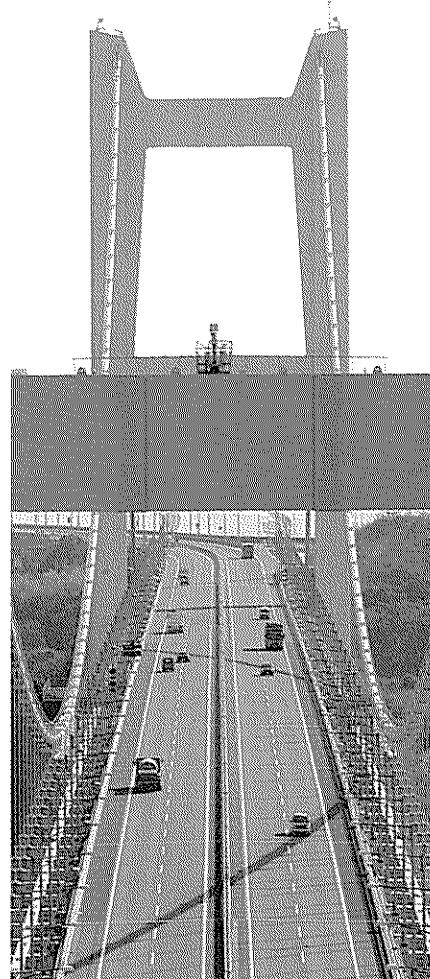
香川・岡山の両地域が一体化するためには、地域のさまざまな情報をお互いに知ることが必要です。民間放送局は、放送エリアが一体化しているメリットがあり、両地域の情報をそれぞれ提供しています。その他のメディアにおいても、各地域の情報が両地域にまたがって提供されるような仕組みを構築するとともに、自治体のマスコミへの情報提供の方法にも工夫を求めます。

II-6

## 広域情報ネットワークの 利用確立を目指す

インターネットの普及により、地域間はもちろん、世界規模での情報収集やコミュニケーションが可能になっています。岡山県では全国に先駆けて情報ネットワーク化に取り組み、岡山情報ハイウェイの構築を進めています。全県地域的な高速インターネット環境の形成やケーブルテレビエリア網の拡大などの施策を行っています。

また同時に岡山情報ハイウェイの中四国各県との接続を進めています。現在、香川県とは瀬戸大橋の光ケーブルを介して坂出市のケーブルテレビと接続しています。しかしながら、瀬戸大橋部分は道路管理用であるため使用が限定されています。利用範囲を広げ、香川県の他地域も含めたネットワークの確立が必要です。ネットワーク化により、香川・岡山間で一般のパソコンを使ったテレビ会議システムなどの利用を進めます。さらに香川・岡山のケーブルテレビのネットワーク化も考えられます。



### 提言Ⅲ

# 世界トップレベルの おもてなしを実現

## III-1

### 東アジア諸国を対象に 瀬戸内海を軸にした 観光振興

海と島、瀬戸大橋が生み出す瀬戸内海の景観は、香川・岡山が誇る貴重な観光資源です。岡山県の観光客数は平成14年は約2,560万人で、県外客の約9割を近畿、中国、四国からの観光客が占めています。これまでの瀬戸大橋開通や倉敷チボリ公園開園の年でも観光客数は2,700万人強で、その後大きな変動はありません。

こういった状況の中で、日本国内での岡山県の観光PRも重要ですが、むしろ海外に目を向けた観光振興を図ることが必要だと考えます。岡山空港にはソウル、上海、グアムへの国際定期便が就航しています。平成16年2月から上海便は毎日就航となりました。

音楽やTVドラマなどによって、韓国や中国では日本への関心が高まっています。瀬戸内海という観光資源を活かして、韓国、中国を中心にして東アジア諸国から香川・岡山地域への観光客動員の対策を講じます。

## III-2

### 瀬戸内海の海産物を 本場で味わう 周遊グルメツアーを企画

その地域ならではの味覚は観光の大きな楽しみのひとつです。グルメ時代といわれる現代では、人は旬や産地にもこだわりを持つ傾向があります。瀬戸内海はタイ、サフラン、タコ、メバルなど魚介類の宝庫で、しかも激しい潮流によって身が縮まり、美味だといわれています。

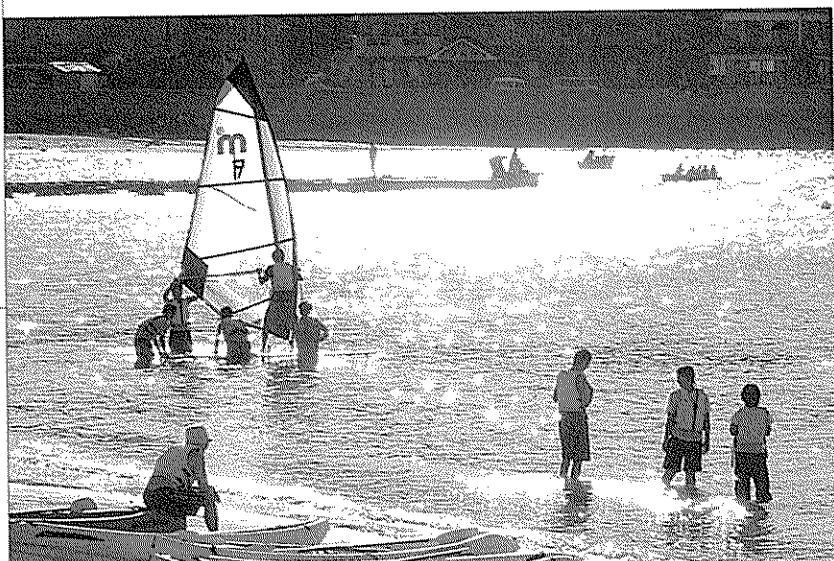
香川・岡山両地域ならではの旬の魚介料理や名物のばらすしなどを地元の料理店で味わえる周遊グルメツアーの企画を実施します。

## III-3

### 四国霊場88カ所めぐりや 香川・岡山の 寺社周遊プランを提案

時間の面や経済的に余裕のある熟年者が増加し、さまざまな趣味や生きがい活動に興じています。寺社仏閣を巡るツアーにも多くの方が参加しています。

四国88カ所の霊場めぐり、お遍路さんは昔から広く人々に親しまれているものです。巡礼の旅はひとときの心の休息であり、癒しなのかもしれません。また、琴平町の金刀比羅宮にも多くの参拝者が訪れます。熟年者向けの四国88カ所めぐりや金刀比羅宮と倉敷の由加山との両参りプランなど、寺社周遊のプランを提案します。





### III-4

## 桃太郎伝説にまつわる名所を 観光資源に活用する

桃太郎の昔話は日本各地に伝わっていますが、香川・岡山の話が有名です。香川県には桃太郎の鬼退治の舞台とされる女木島や鬼が塚、桃太郎神社などの名所があります。一方、岡山県では温羅伝説として知られ、総社市と岡山市には温羅の居城とされる鬼ノ城や血吸川、矢喰宮、鯉喰神社、吉備津神社、吉備津彦神社などのゆかりの名所があり、サイクリング用の自転車道が整備されています。

これら両地域に見られる桃太郎伝説の名所を組み合わせ、共通の観光資源として活用します。

### III-5

## 島々をめぐる クルージングルートの 定着を目指す

瀬戸内海の一番の魅力は多島美の景観です。香川・岡山の海域には多くの島々が点在し、定期船も運航しています。

みかん狩りや古代生活体験などが楽しめる日生諸島、映画やTVドラマのロケ地になった犬島、瀬戸大橋の途中にある与島、現代アートが鑑賞できる直島、キャンプや郷土芸能が楽しめる笠岡諸島、映画とオリーブの島として知られる小豆島など、島ごとにさまざまな特徴があります。

岡山県は春の観光キャンペーンで、瀬戸内海のクルージングを実施しています。今後も各島での体験と牛窓や玉野の海岸スポット、さらに瀬戸大橋の景観を組み合わせたクルージングルートを確立し、クルージングツアーや定期的な実施を考えます。

### III-6

## 瀬戸大橋と景観の魅力を アピールする イベントの定期開催

全長9.4キロの瀬戸大橋は、吊橋、斜張橋、トラス橋などさまざまな形態の橋からなり、日本の橋梁技術の結晶です。橋自体の魅力と、そこから生まれる景観をアピールすることが求められます。

現在、香川県と岡山県、本四公団の協力のもと、瀬戸大橋の利用促進キャンペーンを実施しています。その中で春休みと夏休みには、与島PAから瀬戸大橋の管理路（約3キロ）を歩く体験イベント（瀬戸大橋マリンツアー）や、瀬戸大橋の塔頂（海拔175メートル）から瀬戸大橋の大パノラマを楽しむ体験イベント（瀬戸大橋スカイツアー）を行っています。このような体験イベントを定期化します。

### III-7

## 香川・岡山の両地域で 観光振興の連携を

瀬戸内海と瀬戸大橋は香川・岡山両地域の共通の観光資源です。両地域が観光振興を図るためにには、お互いの連携が必要です。そのため観光誘致やPRのための海外事務所の共同設置、海外企業の視察や観光客の共同誘致などを推進します。

世界基準にふさわしい  
環境を維持

IV-1

### 瀬戸内海の自然を守り育て、 次世代につなぐための 景観協定を

瀬戸内海は「世界でも有数のすばらしい海」と言われています。その特長は比類ない多島美と豊富な生き物、漁業生産性の高さにあります。瀬戸内海を守り育て、次の世代に継承していくことは、地域に住む我々の大きな責務といえます。また、「森は海の恋人」であり、森から川へ、海へと続く地域全体の環境保全が求められています。

香川・岡山両地域では瀬戸内海の自然環境の保全に対し、条例等を定めています。今後は両地域で景観保全等の協定を締結し、連携した保全対策を進める必要があります。

IV-2

### 子どもたちの環境学習の 機会と場を提供する

環境保全を進めていくためには、大人たちが、その必要性を認識し、率先して行動しなければなりません。同時に未来の環境保全を担う子どもたちにも、自然の大切さをしっかりと伝えていく必要があります。

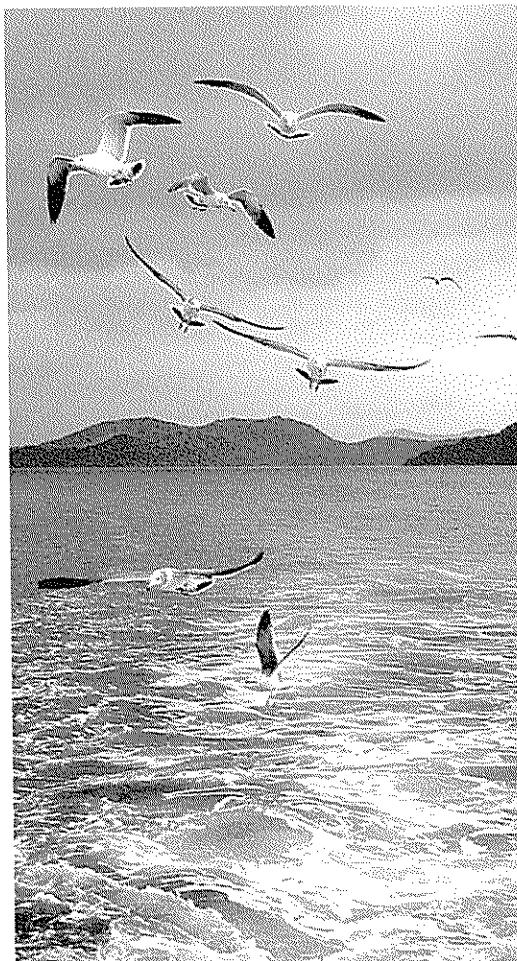
現在、行政の施策として「こどもエコクラブ」や「こどもエコスクール」などの活動のほか、学校でも環境学習に取り組んでいます。今後も行政や教育機関、NPO法人が協力し、海岸の美化活動や親水施設の設置などを行い、子どもたちが環境の大切さを体験し、学べる機会と場を提供します。

IV-3

### 環境保全に取り組む NPO法人の 輪を香川・岡山に広げる

環境保全は国や自治体の施策や活動だけで進められるものではありません。企業や地域住民の協力や行動があって、改善され、守られるものです。一人ひとりの意識の問題もあります。環境に関心を持ち、できることから取り組むことが大切です。

環境に関心を持つ人たちが集まり、NPO法人として、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。岡山県には「旭川を日本一美しい川に育てる会」などがあります。各地域のNPO法人の活動を香川・岡山の両地域に広げ、連携した取り組みを考えます。



#### IV-4

### 沿岸域の環境保全を 総合的に 考える沿岸管理施策を導入

昔から豊かな漁場の近くには森があると言われます。これは森の土中で豊富な栄養を蓄えた水が海に注ぐことで、魚の餌となるプランクトンが増え、その結果、多くの魚が集まってくれるからです。海の環境は陸の環境に支えられているのです。

しかしながら、森林の荒廃や天然林の減少により、森林の持つ保水機能が低下しています。さらに工場や家庭の廃水等により、海水の栄養過多などが原因で、海では赤潮などが発生し、水産資源に大きな影響を及ぼしています。海の環境保全を考える場合、河川や森林の環境保全も一緒に考えなければなりません。さらに、海岸に関する行政が、港湾、水産、河川と分かれ、しかも地域ごとにバラバラに行われていることも問題です。海岸から森林までの沿岸域の環境保全を一体的に図るとともに、行政区画や県境を超えて沿岸域の在り方を総合的に考える沿岸管理施策の導入を提案します。

#### IV-5

### 農村・漁村の環境を整備し、 都市との交流を促進

農林水産業は地域住民の生活を支える重要な産業です。農山漁村の環境を整備することで、快適で住みよい空間を創造します。また、作業体験や物産展などのイベントを通じて都市との交流を図り、農山漁村に対する理解を深めるようにします。香川・岡山両地域での交流も考えます。

#### IV-6

### 「つくる漁業」で 水産資源の確保を

瀬戸内海に面した香川・岡山両地域にとって、水産資源は漁業や食生活で欠かせないものです。しかしながら、海の環境の変化により、魚の漁獲量が減少しています。

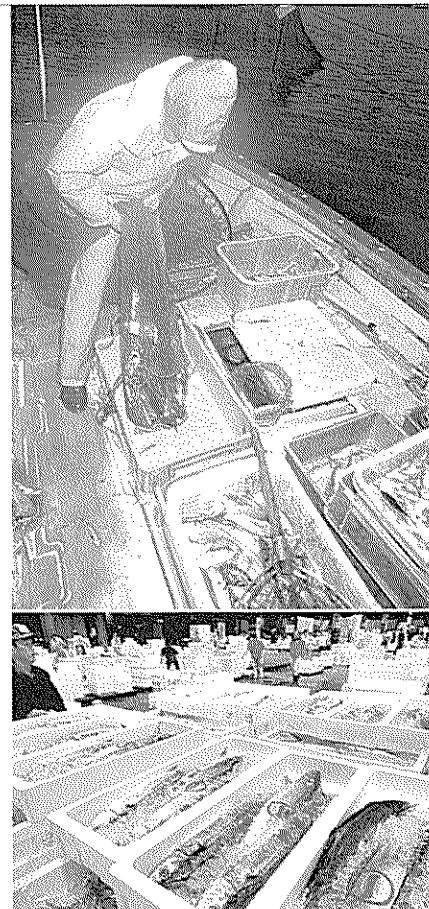
こうした中で、両地域の海ではタイやハマチ、カキなどの養殖が盛んに行われています。海の環境を改善していくとともに、つくり育てる漁業を両地域で連携して取り組みます。

#### IV-7

### 瀬戸内海の改善を進め、 豊かな海、美しい海の 復活を目指す

瀬戸内海を代表する魚にサワラがあります。現在、瀬戸内海のサワラの漁獲高は激減し、市場に出回っているのは九州をはじめ、他の海で獲れたものがほとんどです。

瀬戸内海にサワラを復活させるためにも、藻場の回復や水質の改善、魚の棲家づくりなどに取り組み、豊かな生き物が生息する、きれいな海を取り戻すように努力します。



## 地域振興委員

代表幹事 武田 修一 廣榮堂 社長  
 代表幹事 永島 旭 中国銀行 顧取  
 委員長 古市 大藏 トミヤコーポレーション 社長  
 副委員長 大久保憲作 倉敷木材 社長  
 副委員長 灘 和憲 中国電力 支配人岡山支社長  
 副委員長 西下 裕平 平和タクシー 社長

委 員 逢澤 潔 アイサワ工業 社長  
 饗庭 一義 NTTドコモ中国 岡山支店長  
 生本 純一 みのる産業 社長  
 石指 和樹 タカヤモーター 代表取締役  
 石田 正美 岡山不動産鑑定事務所 代表取締役  
 板谷 見 水島共同火力 社長  
 伊藤 征夫 損害保険ジャパン 前・岡山支店長  
 井上 利彦 三楽 社長  
 伊原木 隆太 天満屋 社長  
 岩満 浩 全日本空輸 前・岡山支店長  
 内山 幸三 内山工業 社長  
 宇野 仁治 宇野自動車 会長  
 大倉 徹彦 山陽放送 社長  
 大塚 長六 タカヤ 会長  
 岡 將男 中国食品工業 社長  
 岡崎 彬 岡山ガス 社長  
 岡本 哲 岡本法律事務所 弁護士  
 小笠原 朗 日本政策投資銀行 岡山事務所長  
 落司 量則 テイコク 社長  
 河東 祐二 朝日生命保険 岡山支社長  
 加畠公一郎 濑戸内海放送 岡山本社代表  
 木谷 忠義 さえら 社長  
 北村 公一 サントリー 岡山支店長  
 河野 和弘 キリンビール 岡山支社長  
 小谷 裕司 エイトコンサルタント 社長

アドバイザー 中村 良平 岡山大学経済学部 教授  
 岡山 一郎 山陽新聞社 解説委員  
 協 力 岡部 明子 建築家  
 オブザーバー 龟池 公明 廣榮堂 社長室長  
 甲元 孝朋 岡山経済研究所 常務理事・所長  
 事務局長 小山 敬雄  
 前 事務局長 田中 幸弘

委 員 酒井 広信 住友生命保険 岡山支社長  
 坂口 正行 倉敷国際ホテル 社長  
 坂本 友彦 日本銀行 岡山支店長  
 佐能 量雄 光生病院 理事長  
 関藤 篤志 井笠鉄道・笠岡通運 社長  
 田野 邦吾 吉備興業 社長  
 千々木 誠 千々木 社長  
 千原 行喜 成通 代表取締役  
 辻中 哲雄 テイコクインフォメーションシステム 社長  
 戸田 煤雄 マルゲン戸田商事 社長  
 豊本 節雄 農林中央金庫 岡山支店長  
 長坂 武志 岡山国際ホテル 前・社長  
 中村 千秋 山崎製パン 岡山工場長  
 永山 靖介 下電開発 会長  
 延原 正浩 マルシン物流 代表取締役  
 浜本 信夫 オムロン岡山 副社長  
 馬場 勉 馬場総合鑑定所 社長  
 平田 敏量 全日信販 社長  
 藤山 修 倉敷開発 社長  
 前坂 匡紀 岡山毎日広告社 会長  
 水谷 覚 日本航空 岡山支店長  
 水間 洋治 同和興産 岡山支社長  
 森 英輔 富士通 岡山支店長  
 柳井 淳 岡山紙業 社長  
 渡部 征紀 中電工 常務・岡山支店長

2004年5月発行

発行者 社団法人 岡山経済同友会

〒700-0985 岡山市厚生町3丁目1-15 岡山商工会議所ビル5F TEL.086-222-0051 FAX.086-222-3920  
 E-MAIL:okadouy@optic.or.jp

写真提供:山陽新聞社

社団法人 岡山経済同友会

